



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

オートチャーティストとは、

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- ◇ [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- ◇ [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- ◇ [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。

（１）EURGBPの買い（シグナル点灯4月18日）TP = 0.8809、SL = 0.8621

先週執筆時点のレートが0.87195、その後のレンジは0.86878～0.87913と19日の執筆時点直後からEURGBPは上昇の動きとなりましたが、TPの水準まではわずかに到達していません。その後はやや水準を下げ26日執筆時点で0.87328となっています。これまで同様に執筆時点のレートで仕切ることとしますので、+13.3pipsの利益となります。損益のpipsをドルに換算する方法は先週のテーマのひとつとして詳細に書いていますので、今週はそのままの損益pipsで表示することとします。

（２）GBPCHFの売り（シグナル点灯4月18日）TP = 1.3684、SL = 1.3837

先週執筆時点のレートが1.37486、その後のレンジは1.36014～1.38073でした。執筆日の夜に

高値をつけその後に大きく売られる展開となり、TP もその日のうちにつけてしまっています。皆さんがお読みになった時には、すべて終わった後だったとは思いますが、+64.6pips の利益となりました。

このレポートの大きな目的のひとつにオートチャーティストを使いこなすということがあります。多くの選択肢の中から、どのような基準で通貨ペアを選んでいるのかという点を参考にいただければ、このレポート無しで皆さん独自の判断で選ぶことが出来ます。そうすれば、週末に限らず週のどの時点でも使いこなすことが出来るようになります。週末レポートのピックアップと皆さんの判断が一致したら面白いですね。

(3) GBPNOK の売り (シグナル点灯 4 月 18 日) TP = 10.8928、SL = 11.1711

先週執筆時点のレートが 11.0152、その後のレンジは 10.9297 ~ 11.0530 と、執筆時点直後に上げた後はじり安の展開となり、TP の水準に近づいたのですがその後は反転上昇となりました。どちらの仕切水準にも到達していませんので執筆時点のレートで仕切ることとします。このように見方は合っていても仕切りの水準がやや違って損失に転じるのは悔しいですが仕方ありません。現在のレートは 11.0982 ですから - 833pips の損失となります。ただ GBPNOK は大台が 10 ~ 11 と大きいですから、ざっくりとしたイメージでは 10 分の 1 となる 83pips 程度の損失となります。3 つを合わせてドル換算するとどうなるかは、先週のレポートを参考にご自身で計算してみてください。

日柄について

先週は計算ばかりでしたし今週はゴールデンウィーク直前なので、カジュアルなテーマかつチャートの分析に関連する話をしましょう。

テクニカル分析 (チャートの分析) はファンダメンタル分析と並ぶ、マーケットの世界では重要な分析手法です。特に FX ではテクニカル分析のウェイトが高いと思われますが、テクニカル分析にも様々な手法があります。大きく分けると、オートチャーティストのようにパターンを分析する方法、移動平均線や RSI といったテクニカル指標を使って売買タイミングを考える手法、そして日柄を考えて売買する手法があります。

日柄にも色々なものがありますが、例えば 2 月 15 日と 8 月 15 日は米国債の利払い日で、日本では機関投資家からクーポン (債券の金利) 分のドルを円転する動きが見られ、一般的にはドル売り・円買いが起きやすい日柄と考えられています。この日柄は実需に基づく日柄分析ですね。また一目均衡表やフィボナッチ比を使って日柄を求める場合には、過去の天底 (高値・安値) を基準に次の変化する日柄を求めています。

もうひとつ、変わっている（怪しいとも言われる）手法にアストロサイクルがあります。これは天体の様々な現象とマーケットの動きの相関を統計的に処理して、変化する日柄を求めようというもので、欧米の市場参加者には思いのほか受け入れられている手法です。驚くべきことに一時UAEのファンドマネージャーの一人は、この方法で運用を行っていました。

実は私もアストロサイクルを利用して、それをFXの短期売買用にアレンジしたものを開発し、おそらく世界的にもトップクラスではないかと思っています。「投資カレンダー2018」というものをパンローリングから出版し、今年1年間の為替の動きについて書いていますが、今のところ8割以上はその通りの展開で進んでいます。

今週の部分を見ると「25日東京市場から26日欧州市場までドルが買われやすく、いったん止まった後、27日NY市場ではドルが売られやすくなるだろう」（原文まま）と書いてあります。カレンダーは10月頃に売られますので、入稿は昨年7月です。天体の位置は10年後も、100年後も変わらないでしょうから、そうした点ではなかなか便利な物なのです。

今週も今のところ当たっています。これで明日27日にドルが売られれば、かなりいい精度での日柄分析になりますが、果たしてどうなるでしょうか。

今週の特徴

まず、来週はゴールデンウィーク後半で3～6日と連休になりますので、次回更新はその翌週10日となります。そこで、今回は次回更新まで2週間あることを考慮して日足を使ったピックアップとしました。また確率的に70%以上で出ているものからのピックアップとしましたが、今週はゴールド関連です。

ゴールド、特にドル建ての金は金融市場では為替と同じ扱いです。コモディティ（商品）の面と為替に近い面とを持ち合わせている面白いプロダクトであるとも言えるでしょう。しかし、日本のFXでは金は商品という扱いなので、FX会社で取引可能なところはほとんどありませんが、サクソバンク証券では証券CFD、商品CFDと何でも取引が出来る金融商品のデパートですから、これを機に金にも興味を持っていただければと思いました。

さて、金と言えばスイス銀行の金の延べ棒を思い出しませんか？映画や漫画の見過ぎと思われそうですが、実際にスイスでは金の保有も多く、金価格と為替のスイスフランは相関が高い組み合わせのひとつと考えられています。ただ、最近ではそこまで相関が高いとも思えませんので、金の動きとスイスフランの動きとで、あえて逆になっているものでヘッジも兼ねたバスケットとしてみました。

ひとつめは金 (XAUUSD) の売り、後の 2 つは GBPCCHF の売りと NZDCHF の売りで、どちらもスイスフラン買い、つまりと金売りとスイスフラン買いによるヘッジのイメージです。

今週のピックアップ

(1) XAUUSD の売り



チャートパターンとしては「上昇チャネル」の下抜けによる XAU 売り (USD 買い) という金売りのシグナルです。直近ではドル高の流れもあり、それが金売りに繋がっている面もありますが、金が売られるのはどちらかというと為替市場でリスクオンの動きが見られる時と言えるでしょう。日足ですから今回はグレーのゾーン (上端 0.8809) をターゲットとする動きが 9 日以内と指摘されています。

余談となりますが、金は XAUUSD とユーロやポンドと同じ表記方法となる他国通貨建ての表示となります。これは金が商品として物という面から来ていると思いますが、グローバルな取引単位はグラムではなく 1 トロイオンスです。1 トロイオンスは 31.1035 グラムですから、ドル建ての金価格を 31.1035 で割って、それにドル円のレートを掛けてあげれば、1 グラムあたりの金価格とほぼ同じになります。

ほぼ同じというのは、金を国内に移動させる際のコストなども含まれるため、国内の店頭における現物の金価格とは多少のズレがあるわけです。

戦略 : XAUUSD の売り (シグナル点灯 4 月 24 日) 執筆時点 1323.98

TP = 1307.06、SL = 1365.34

(2) GBPCHF の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる GBP 売りです。先週の GBPCHF も売りであったことを考えると短期的にはいったん利食いとなったものの、長期的にはいまだ売りのパターンとなっていることとなります。こちらは 13 日以内にグレーのゾーン(上端 1.3410) をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：GBPCHF の売り（シグナル点灯 4 月 21 日）執筆時点 1.37055

TP = 1.3410、SL = 1.3856

(3) NZDCHF の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる NZD 売りです。今週は基本的にどれも同じパターンと言えます。こちらは 15 日以内にグレーのゾーン（上端 0.6887）をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：NZDCHF の売り（シグナル点灯 4 月 26 日）執筆時点 0.69444

TP = 0.6887、SL = 0.7122

それでは、来週はお休みとなりますので、次回は 5 月 10 日執筆となります。

【本レポートについてのご注意】

本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。